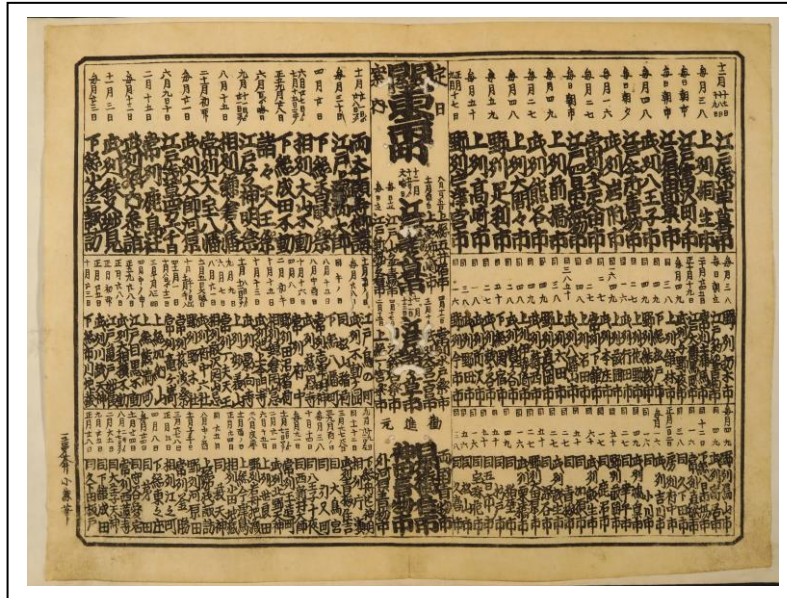




「いいのう(飯生)」でいいの？

尾崎 泰弘



これは、幕末の頃の関東で「市」(いち)が開かれていた町を番付風に一覧にしたものです。江戸時代には相撲の番付にならって役者や同業者、名物などを列記した様々な見立番付が作成されました。中央の柱に「関東市町定日案内」とありますが、ほぼ同じタイトルで似ている番付が弘化 4(1847)年に江戸の金清堂というところから出されています。それには右半分は江戸富沢町市を筆頭の大関に、関脇が上州桐生、小結が武州八王子、前頭の武州岩付(槻)と市が開かれた町の名前が市の開催日とともに挙げられます。

前頭をずーと追っていくと熊谷、与野夜市、行田と続き、この辺では所沢、寄居、小川、松山などが出てきます。その中に野州鹿沼市と武州加須市の間に「毎月六十 武州飯生市」というのがあります。武州ですから、現在の埼玉県、東京都及び神奈川県の一部に該当しますが、旧武蔵国で「飯生」という町は聞いたことがありません。

インターネットなどで見てみると「飯生」は苗字や北海道の地名にはあり「いいのう」「いいの」「いなり」と読む場合があるようです。私がかつて本市の学芸員として着任した際に、先生や友人などからよく「いいのう」と間違えられました。また飯能の町は江戸時代前期に市が開かれるようになってから一貫して市日は 6 と 10 の日、すなわち 6・10・16・20・26・晦日の月 6 回と決まっています。多くの場合市日は 5 日をあけた日、例えば所沢は 3 と 8(3・8・13・18・23・28 日の 6 回)、越生なら 2 と 7 というのが普通で、飯能のように市日がそうならないのは珍しいといえます。

この「飯生」というのは「飯能」のことと考えられます。つまり、飯能の町は、現在の埼玉県西部地域では、所沢と並ぶ賑わっていた町として知られていた、ということになります。「飯生」は「いいのう」だったのでしょか。それともこれで「飯能」と読んだのでしょか？(牛米努氏蒐集文書 No.28)

【参考文献】

越生町教育委員会『越生の歴史Ⅱ 近世』平成 11(1999)年 3 月